

# ふくおか A L 通信

第 38 号  
(R 3.2.4)

～ 県立学校の教室から～

福岡県立学校  
新たな学び  
プロジェクト



福岡県立大川樟風高等学校

～ 十人十色の未来と笑顔 ～

福岡県立大川樟風高等学校は、平成 14 年に大川高等学校と大川工業高等学校の発展的再編によって誕生した、普通科（2 クラス）、文理科（1 クラス）、住環境システム科（1 クラス）の異なる学科を併置した、県内に 4 校ある総合型高校の一つです。「志学・創造・貢献」の校訓の下、豊かな心と自立の精神を育み、平和的な国家及び社会の形成に貢献できる心身共に健やかな人材の育成を目指しています。

## 1 授業改善の目指す方向性

大川樟風高校は、各学科において、体系的、計画的な学習を確保しながら、生徒の興味や進路希望の変容に応じて、弾力的に希望する科目の選択ができる総合選択制を導入することで、多様で柔軟性のある教育課程を編成し、教育活動を行っています。大川市唯一の高等学校として、地域を支える有能な人材を育成し、地域に根ざした特色ある学校を目指しています。生徒や保護者、そして地域社会のニーズに応えるために、「十人十色の未来と笑顔」をコンセプトに授業改善及び情報発信に力を入れています。その中でも、ICT 教育を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることで、生徒の学力向上、進路実現に力を入れています。

## 2 授業改善の推進体制

### (1) 充実した ICT 機器

授業改善を推進していく上で重要な役割を担っているのが、充実した ICT 機器です。校内には、電子黒板 5 台、タブレット型端末 121 台、無線 LAN、移動式アクセスポイントが整備され、各教科等の授業への活用が積極的に図られており、生徒の学力向上の推進に効果を上げています。

### (2) ICT 活用に関する校内研修

年 3 回の ICT 活用に関する校内研修や「ICT 通信」の定期的な発行を通して、ICT 活用のスキルアップや活用事例の共有化を図っています。

### (3) WEB 学習サービスの活用

文理科では、平成 27 年度から WEB 学習サービスを導入しています。基礎学力の定着を目的として、各教科の担当教員が、1 日 1 回、課題と解答を生徒のタブレットに配信し、家庭学習を促しています。この課題の取組状況から、教員は生徒の理解度を事前に確認し、授業計画を立てることができます。授業中における生徒の疑問点は、タブレットを介して瞬時に全員で共有され、それらの疑問に対し、グループ活動等で意見を出し合うことで解決しています。このような学び合いを行う中で、インプットとアウトプットを促進し、知識の定着を図っています。また、生徒の学習の記録についても WEB 学習サービスを活用しています。家庭での学習時間や学習した教科を入力し、グラフ化することにより、生徒自身が日々の学習時間の確保ができていないか、学習教科に偏りが無いかを確認することができます。生徒は自分自身の学習への取組を振り返り、目標設定を行い、課題を自覚することで学習改善や自己調整力を高めることにつなげています。教員は、WEB 学習サービスを活用して、生徒の家庭学習の状況を正確に把握し、生徒の学びを深め、希望進路の実現を図るための学習を考えています。

#### (4) 動画配信

学校のホームページから各生徒が授業動画を視聴できるようにすることで、基礎的な知識・技能を自ら学べるようにしています。また、コロナ禍における休校期間中には、課題の解説動画や就職希望者へ向けての就職対策動画等も配信し、生徒が主体的に取り組むことができる環境を充実させました。

### 3 授業改善の実践

#### (1) 研究授業

毎年、各教科の代表1名が研究授業を実施するようにしています。実施に際しては、ALもしくはICTのいずれかをテーマとして、研究授業を実施するようにしています。このようにテーマを設定して研究授業を実施することにより、教員のALの実施やICTの活用に対するアイデアがふくらみ、ALやICTを日々の授業に取り入れることが進んでいます。



写真1 研究授業の様子

#### (2) 日常の授業

電子黒板を資料提示や黒板の代わりに使用することはもちろんのこと、生徒の発表用としても大いに活用しています。生徒の考えを表出する際に電子黒板を使用することにより、思考力・判断力・表現力を高めることを心掛けています。

「生物基礎」の授業では、まず、生態系の回復について理解を深めるために、電子黒板でアメリカ・イエローストーン国立公園のオオカミの個体数とポプラの若木の個体数の資料などを提示しました。その後、身体的距離を保ってのペア学習で、生物種の増減についての考えを深めた後、全体で交流しました。

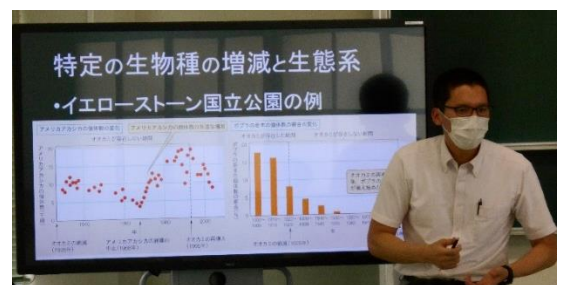


写真2 生物基礎の授業の様子

#### (3) 評価への活用

一部の教科では、タブレットの録画機能等を用いて、生徒の活動の様子や実技試験を動画で記録し、授業後に様相観察や実技の再確認を行う等、評価にもICT機器を活用しています。

### 4 ICT教育推進による効果

ICT教育を推進することにより、生徒の顔が上がっている時間が増え、ノート記入等の時間が削減されることで、生徒の思考する時間や生徒同士が対話する時間が十分に確保できるようになり、「主体的・対話的で深い学び」が実現できています。また、教員にとっては、ICTを活用した授業づくりに向けて授業の進め方を教え合ったり、一緒に考えたりすることで互いに刺激し合い、職員室内の会話が増え、情報の共有も進んでいます。さらに、生徒の振り返りの時間を設けることにより、生徒が自らの学習への取組を見直し、授業を通して何ができるようになったかを確認できるようにしています。これらの取組が広がるにつれて、教員が一人一人の生徒をしっかりと見取ろうとする意識も高まっています。



写真3 グループ学習の様子

### 5 成果と今後の方向性

ICT教育を進めることにより、生徒の学びへの意識が変容していることを全教員が実感しています。今後、この取組をさらに全校的に日常的に広げていく必要があります。そのため、大川樟風高校の目指す生徒像から生徒に付けるべき力を見直し、計画的、組織的な授業改善を推進していきます。